

■離島へ転校したらホストファミリーがドスケベで困る ボイスドラマ 灯
編

灯「やんっ……♪ もう、恵ったらどんだけ発情してんの……？」

灯「家に帰るなり即がっついてくるとか、いくらなんでも盛りすぎでしょ」

灯「確かに、二人が帰ってくるまで……ん、ちゅっ……一回でも多くシたいって気持ちは、私も一緒だけど……」

灯「だからって……ぺろっ、玄関でこんな……れろ、ちゅるっ……ん、さすがにヤバくない……？」

灯「もし、お母さんにバレたらって想像したら……ぺろ、ちゅぷっ……それはそれで、ドキドキしちゃうし……あんっ」

灯「そのドキドキがコーフンになって、セックスも盛り上がっちゃいそうだけど……れろ、ちゅばっ……」

灯「あ、ヤバイ……舌絡めるキスだけで、もう濡れちゃいそう……ん、ちゅぶるっ……れろれろっ……」

灯「ね、やっぱ私の部屋行こ……？ 今日はちょっと、試してみたいプレイがあるの」

灯「私の言いつけは聞くって約束でしょ？ だってあんた、居候だもんね」

//SE ドアを閉める音

//SE 鍵を閉める音（部屋に鍵があるようでしたら）

灯「んっ、今日もあっついねえ。学校から帰ってくるだけでも汗かいちゃうよねえ」

灯「恵も汗スゴいよ？ ほら、首のところとか、汗が玉になって……れろっ」

灯「ふふっ、分かってたけど、やっぱ汗ってしょっぱいよね」

灯「私もね、恵に負けず劣らず汗びっしょりなんだ……ふう……」

灯「首筋とか、太ももとか……目に見えてるところだけじゃなくて、服の中も汗だくでさ」

灯「下着なんて、一日着てたからもうびしょびしょなんだよねえ……すっごい蒸れてるのが自分でも分かっちゃう」

灯「……今、変な想像したでしょ？」

灯「はい、絶対ウソー！　だって目つきがエロかったもん。あっはは！」

灯「でも今のリアクション……満更でもないって感じだよねえ」

灯「……ね、嗅いでみない？」

灯「なにを、って……決まってるじゃん。私のエッチなニオイ」

灯「ほら、この前初めて恵と中出しセックスしたとき……お互い汗だくだったでしょ？」

灯「そんな時の、恵の汗のニオイ……私、意外と嫌いじゃなかったんだよね」

灯「だから、恵も私のニオイに興味あるかなーって。ほら、恵って見かけによらず変態でしょ？」

灯「登下校とか、体育の授業でたっぷり汗かいた女の子のニオイ……今だけ特別に嗅ぎ放題だよ？　しかも無料だよ？」

灯「……うん、素直でよろしい！　それじゃあ……とうっ」

//SE　ベッドに倒れ込む音

灯「ほら、じっとして……チャックに挟まっても知らないよ？」

//SE　衣擦れの音

灯「わっ、出てきた出てきた……恵のおちんちん、もうこんなになってるじゃん……♪　私のニオイが嗅げるからって、興奮してんの？」

灯「そして思った通り、恵のニオイがスッゴい……脱がした途端むわあって漂ってきた」

灯「ほらほら、私が脱がしてあげたんだから、そっちも早く脱がせてよお……」

//SE　衣擦れの音

灯「あっ……ねえねえ、どう……？　シャワーを浴びる前の、蒸れ蒸れおまんこを間近で見た感想は……？」

灯「エッチな汗のニオイ、しちゃってる……？　遠慮しないで、いっぱい嗅いでいいんだからね……？」

灯「女の子の恥ずかしいところのニオイを、好きなだけ嗅げるチャンスなんて……もう、一生ないかもしれないんだから」

灯「あぁっ……♪ ん……ふふっ、おまんこで恵の鼻息感じちゃってる……私のいやらしいニオイ、思いっきり吸い込まれてる……」

灯「じゃあ、こっちも……ん、すんすんっ……はぁっ……」

灯「やっぱりこのニオイ、クセになっちゃうかも……♪ んん……すんすんすん」

灯「汗のニオイだけじゃなくて、スッゴク濃厚なオスの香りがする……」

灯「このニオイを鼻で吸い込むと、目の前がクラクラってして……おちんちんって言葉で、頭がいっぱいになっちゃうんだよねえ……♪」

灯「うん、私好きだよ……おちんちんのニオイ……大好きい……」

灯「ほら、恵ももっと嗅いでよお……私のおまんこが寂しがってるよ……？」

灯「それとも、恵は私のニオイがあんまり好きじゃなかった……？」

灯「……うわっ、そんな必死にフォローされると、それはそれで若干引くんですけどー？」

灯「なーんて、冗談冗談。ほら、機嫌直してよお。おまんこ開いて見せてあげるからぁ……♪」

灯「ほーら、奥までよく見えるでしょ……？ おちんちんのニオイ嗅いだけで、もうこんなに濡れちゃってる……」

灯「あっ……♪ やっとその気になってくれたぁ……♪ 恵の鼻が、私のおまんこにぴったりフィットしちゃってる……♪」

灯「ん、んっ……なんか、モゾモゾするっ……これ、鼻の頭がおまんこに擦れて……ちょっと気持ちいいかも……」

灯「ひゃっ……！ ちょ、ちょっと恵？ そこはおまんこじゃなくて、毛のところ……」

灯「え……？ こっちの方がニオイが濃い？ そ、そうなんだ……あらためて言われると、さすがに恥ずいかも……」

灯「ん、んっ……くすぐったい……恵の鼻が、もそもそ動いて……エッチなところのニオイ、思いっきり吸い込まれてる……」

灯「わっ……おちんちんが何もしてないのに、バッキバキになってるんだけど……」

灯「これって、私と一緒に？ エッチなところのニオイを思いっきり嗅いで、興奮したってこと……？」

灯「へえ……やっぱり恵って、変態の素質があるじゃん」

灯「いいよ、もっと嗅いで……？ お互いにエッチなニオイ嗅ぎあいっこしながら、気持ちいいコトしよ……？」

灯「ん、んんっ……すんすん……れろっ、ちゆるるっ……ちゅぶ、んんっ……」

灯「おちんちんのニオイ、好きい……おちんちんもこのニオイも、どっちも好きっ……」

灯「ああ……やっぱ無理かも……こんな至近距離で勃起したおちんちん見せつけられたら、ニオイだけじゃ我慢できないよお……」

灯「はあ……ん、むっ……ちゆるっ……ぺろんっ」

灯「ん、れろっ……ぺろぺろっ……たくましいちんちん……先っぽまで、全部味わいたいから……れろっ、ちゆるっ……」

灯「ん、ふふっ……気持ちいい？ 恵の弱いところは、大体分かってるよ……？ ペろっ、れろっ……」

灯「この、裏筋のこととか……出っ張ってるカリのところとか、舌でなぞられるの好きでしょ？」

灯「あと、こうやって……れろれろんっ、ぺろっ、ちゅぶるっ……おちんちんの頭を、舌で撫で撫でされるのも……ふふっ」

灯「え……？ いつの間に把握したんだ？ って……？」

灯「そんなの、何回もセックスしてる間に決まってるじゃん……ん、ちゆるっ……」

灯「だって私たち……れろ、ちゅばっ……初めてした日から、ほぼ毎日セックスしてるんだよ？」

灯「学校でペン握ってる時間と同じくらい、恵のおちんちん握ったり、しゃぶったりしてるんだから……」

灯「恵のどこが敏感なのかなんて、身体に刻み込まれるレベルで覚えちゃってるし。あはっ……♪」

灯「あっ、先っぽから我慢汁出てきた……これ、私の舌でおちんちんに塗ってあげるね……」

灯「れろっ、ん、ちゆるるっ……べろんっ、れろっ、ちゅぷっ……ちゅっちゅ、れろっ、ぺろっ……んちゆるっ……」

灯「んっ、れろんっ……はあ、おちんちんテカテカしてる……先っぽも、ツルツルになって——」

灯「ひゃあっ……！ あっ、ああっ……ん、恵も、舐めてくれるの……？」

灯「いいよ、舐め合いっこしよ……？ ん、ちゆる、れろれろっ……」

灯「ん、ふああっ……！ あっ、そこっ……いいっ……ぺろっ、ちゆるっ……ん、気持ちいいっ……♪」

灯「おまんこの、周りのところ……丁寧に舐められると、中の方がキュンキュンってしちゃう……」

灯「うん……おまんこがね、期待しちゃうの……このおちんちんが欲しくて、身体の奥が疼いちゃう……」

灯「恵も、そういうことあるでしょ……？ おまんこにハメたくて仕方がない、って気持ちになること……」

灯「そういう気持ちをお互いに高め合った状態でセックスしたら……絶対、ヤバいくらい気持ちいいよね……♪」

灯「ひゃあ、んんっ……！ もう、おまんこにがつつきすぎい……♪」

灯「そんな必死に舐められたら、ん、はあっ……♪ 私も、本気になっちゃうじゃんっ……ん、ちゆるるっ」

灯「はむうっ……！ ん、じゆるっ……！ じゅっ、ぷちゅっ……」

灯「じゅぷっ、くぷっ、ちゆるるっ……ん、ふむうっ……ん、んんっ……！」

灯「んっ、ぷはあっ……！ はっ、はあ……はむっ！」

灯「んふうっ……ん、んじゅっ、じゅぶるっ、くぷっくぷっ……ちゅっ、ずぞぞっ……！」

灯「ぷはっ……！ ん、ふふっ……♪ おちんちんビクンビクンしてる……恵ってば、必死に我慢しちゃって……カワイイんだー」

灯「ふはあっ……！ んっ、こくんっ……はっ、はあ……はっ……ん、はあ
っ……」

灯「んあっ……はあ、はっ……スゴっ……濃いのが、喉に絡まって……けほっ、けほっ……！　ん、んくっ……こくんっ……」

灯「もう、恵ってばあ……はっ、はあ……相変わらず、濃厚すぎい……毎日してるのに、なんでこんなに濃いわけ……？」

灯「ひょっとして、私のこと本気で孕ませたくて、ここで毎日濃いのが作ってるとか……？　ふふっ、なーんてね……♪」

灯「はあ……私も軽くイッちゃった。顔にかかっちゃったかな？　だとしたらごめんね……？」

灯「エッチなニオイ嗅ぎながら、お互いに大事なところ舐め合うの……思ってたより、ずっと気持ち良かった……」

灯「でも……まだ全然、満足できてないよね？」

灯「それどころか、今のがウォーミングアップって感じでしょ？　だって、恵のおちんちんまだ全然元気だし」

灯「ねえ、見て……？　あたしのおまんこも、奥の方までびしょ濡れ……」

灯「ビンビンになってるそれを入れて欲しくて、すごい疼いちゃってる……分かるでしょ……？」

灯「あはっ……私のおまんこ奥までのぞき込んだだけで、今ビクンってした一」

灯「恵のおちんちんって正直者だよな。だから好きだよ」

灯「うん、まだ大丈夫……鼓もお母さんも、まだ帰ってこないと思うから……」

灯「だから、そのビンビンに盛っちゃってるおちんちんでえ……」

灯「私のびしょ濡れおまんこ……いーっぱい、パコパコしちゃおう？」